

どんびま

2012年11月12日発行
発行者 椀の湖農業小学校

ハナワラビ

我が家の氏神様のお祭りの日
がせまって、参道の草刈りをして
いて、いつもの場所にハナワ
ラビを2株見つけた。

ハナワラビは日本各地の野山
に自生する多年性のシダ植物で
ある。秋に小さな葉を広げ、小
さな黄金色の胞子が穂状につい
た胞子葉を伸ばす。春には枯れ
て夏は休眠する。

昔、サギソウなどが自生して
いて盗掘された場所なので、移
植をした方がいいだろうかなど
と考えながら家に帰り、掃除に
出た高塚の外で見つけたのだ。裏山に登る道の登り口までに、小さいながらいっぱい
のハナワラビだ。

ものすごく得した気分の今年の秋である。 (草)



11月授業日のご案内

- 日程 11月25日(日)
受付 9:00~ 9:30
はじめの会 9:30~ 9:40
授業(収穫) 9:40~12:00
収穫祭(昼食) 12:00~14:00
卒業式 14:00~15:00
(卒業証書授与)(文集配布)
(バケツ稲・かかしコンクール表彰)
- 持ち物 手袋、タオル、雨具、着替え
買い物袋(たくさん)、箸、食器
- 卒業記念作品展
キャンプの物作り教室の作品
農小の写真・絵
その他、趣味の作品
ぜひ、出品してください。
- 郷土料理 ぜんざい、おでん、五平餅ほか

●締め切り 11月20日(厳守)

- 問い合わせ・緊急連絡 TEL: 0573-75-4417・FAX: 0573-75-4418
携帯: 090-5110-9362 (山内總太郎)

☆25日に欠席の人のために、12月2日(日)午前11時から12時まで、野菜の収穫だけ
をします。お出かけの方は、事務局まで必ずご連絡下さい。

～とくちゃんの農小レポート～

稲穂からお米にするのは大変だ～！

椈の湖名物「そば畑」にイノシシが入ってしまったのは、とても残念でしたが農小の畑は農場長の管理が良く行き届き、無事だったのは感謝です。

- 1 午前の授業。 畑の作業は、さつまいも、ねぎ、枝豆、落花生の収穫と大根の間引きを行いました。落花生はハザ干しして乾燥させます。
- 2 ハロウィン。 南瓜のお化けを作り、子供達が秋の収穫を祝うという欧米の風習が日本にも形を変えて普及されつつあります。農小ではお父さん達がジャンボカボチャに挑戦し、数個（最高36キロ）の収穫があったので、各グループごとに、お化け作りに挑戦しました。
初体験の生徒がほとんどのようで、お父さんの助けが必要でした。
来年は一人一個宛て？出来ると楽しいね！
- 3 焼き芋。 掘り上げたさつまいもを洗い大きさを揃え、濡れ新聞紙とアルミホイルで包み、焼けるように準備をしました。
畑の中に穴を掘り焚火体験をした跡で、焼きいもが出来あがります。
- 4 昼食。 今月は収穫したものを使って、盛り沢山のメニューが並びました。
栗おこわ、豚汁、大根サラダ、カブの浅漬、人参カラムーチョ、ささぎの胡麻和え。
- 5 午後の授業。 脱穀作業、こぼし（せんば）で稲穂から粳を落としたり、足踏み脱穀機で稲落としを、夫々一人三把ずつ体験しました。其のあとは粳を一升瓶に入れて、棒で搗きながら粳摺りを行いました。とても時間と根気のいる作業ですので、持ち帰って家で体験してもらいました。
- 6 焼き芋。 お楽しみの焼き芋でしたが、今回はオニマンジュウのオヤツも出ましたので、焼き芋は持ち帰って頂きました。
- 7 持ち帰り。 さつまいも、ねぎ、枝豆、大根の抜き菜、焼き芋。
枝豆は普通の大豆ですので、市販の枝豆とは一味違います。

～とくちゃんのちょっと一言～

例年の様に、今年も12月、1月、2月の休校期に課外授業として、「物作り教室」を行います。

12月は藁細工として縄ない、メナワ、草履づくり等を、

1月は連凧作りと左義長（どんどやき）体験を、

2月には絞り染めと花餅作りを予定しております。

場所は冬場でも通行の安全な下野（あぼ兄の家の前）「いきいき会館」にて行う予定です。卒業式には日程及び内容について表示し、申し込み用紙を準備いたしますので、興味のある方は是非ご参加下さい。

～あぼ兄の百姓ばなし～

ジャンボカボチャに挑戦

今年、農小ではジャンボカボチャを作ろうと、お父さん達が集まり挑戦した。だが、意気込みはよかったが、畑は新しい山畑で、しかも農小から遠く離れていて、水やりなどの通常の手入れが行きとどかず、不作だった。

かつて、農小では2000年から毎年取り組んだが、春暖かくなるのが遅いので苗の生育が遅れ、なかなか大きな物は出来なかった。名古屋市でのジャンボカボチャ大会に出品しても暖かい平野部には敵わなかった。ところが2004年の第6回大会では、なんと我が農小の65.9kgのカボチャが優勝した。名古屋市からの農小スタッフが出品し、表彰式にはテレビ出演もあった。この年は長雨で、どこのカボチャも不作だった中で、生き残ったのが農小のカボチャだったのだ。

その後、農小の現在地への移転があり、取り組みがなかったが、今年は久々の挑戦だった。「お父さんたち、本当にご苦労様でした。」

わずかな収穫だったが、中には大きなものもあり、10月には重量当てクイズ(投票)をした。35kgのズバリ正解は無かったが、1kg違いが6名ほどあった。

各グループごとにハロウィンの「おばけ」を作るには、農小の収穫だけでは不公平すぎるので、小林トクちゃんの作ったものを組み合わせて、抽選で配った。各グループは「おばけ」作りに真剣に取り組んだ。それぞれユニークな表情のものが出来たので、作っただけでは勿体ないと、アボ兄たちの直売所に飾った。

ハロウィンとは本来「聖夜」の意味で、ヨーロッパを起源とする宗教的な民俗行事だ。昔、ケルト族が10月31日の晩に、カボチャなどの瓜類をくりぬいて提灯を作り仮装行列をし、ご馳走を食べて歌や踊りを楽しんだ後、悪霊を祓うお祭りが、キリスト教の万聖節の前夜祭として取り入れられたものが、アメリカに移ってからは主に子どもの行事として定着したと云う。アメリカでは子ども達が仮装をして近所を回り「お菓子をくれなきゃ、いたづらするぞ。」と言ってお菓子をねだって歩くと聞く。いつの間にか日本にも浸透していて、この季節になるとあちこちからお化けカボチャが笑いかけてくる。

新聞によると、岐阜女子大生が長良川鉄道と連携して、ハロウィンパーティー列車「トリック オア トリー ト レイン」を企画し、郡上八幡や美濃市で仮装行列が行われ、参加した子どもたちはたくさんのお菓子をもらえて楽しかったとあった。

直売所に飾った「おばけ」は、カボチャが完熟したものは永くもち、ハロウィンの日も来る人を楽しませたが、未熟なものは1週間もたなくて腐ってしまった。

以前にあぼ兄は地元の保育園の子どもたちの馬跳びに使ってもらおうと、特別大きなのを持ち込んだところ、日がたつと中から腐敗がすすんで、最後はとんでもない事になってしまったことがあった。

あの頃、あぼ兄はこんな事を考えていた。ジャンボカボチャをまずは農小への道標に置いて、他にも町のあちこちには、楽しくなるユニークなイラストを描いて置いたら面白いと。もちろん有効期限をつけておかないといけませんが。

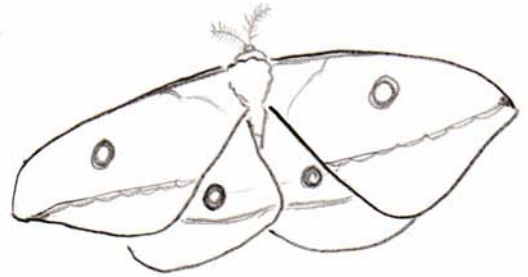
かなちゃんの虫日記



がわ うえ みち きみどりいろ まめ てあし
 川 上 の 道 で、黄系緑色の豆に、手足が
 はえていて、わらっているかんはんに
 見かけたことは ありませんか？

おまめぼーやではありません。ヤママユくんです。

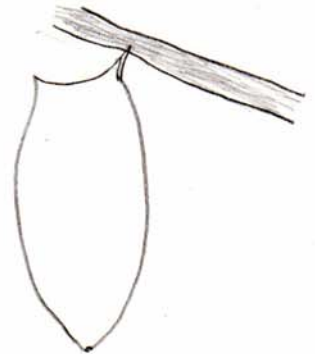
きいろ ちせいろ
 黄色、ほろい茶色のぶあつくて
 おお
 大きめな が が ヤママユの
 せいぢゅう
 成虫です。夏の夜に
 よく見かけます。



たまご かい
 卵で 冬をこして、でてきた ぶちゅう
 幼虫は クヌギやカシなど
 木のほっぱをたべてそたちます。大きくなると、
 ぶちゅう
 幼虫は 口から糸をはき、まゆを作ります。まゆの
 なか
 中で さなぎになります。そして、せいぢゅう
 成虫がでてきます。

まゆの糸は 軽くて じょうぶなので、人はまゆから
 糸をとり 布を糸織ったりします。

ふゆ
 冬がきて、木のほっぱがおちると、
 えだ
 枝に うすい黄系緑色のまゆがぶら
 さがってるのが 見つけやすくなります。



とてもきれいな色なので、ぜひ注目して、見つけてみてください！